

啄木ゆかりのカルタ寺

本行寺の門信徒会報

— 来た道・ゆくと道 —

第80号

2023年1月1日

本行寺門信徒会 釧路市弥生2丁目 TEL 41-5329
E-mail hongyouji@poppy.ocn.ne.jp

特別寄稿

本行寺の建築意義と特徴／4頁
京都華頂大学 川島智生



親鸞聖人御誕生850年 慶讃法要 立教開宗800年

法要期日 2023(令和5)年

- 第1期 3月29日(水)～4月3日(月)6日間
- 第2期 4月10日(月)～4月15日(土)6日間
- 第3期 4月24日(月)～4月29日(土)6日間
- 第4期 5月6日(土)～5月11日(木)6日間
- 第5期 5月16日(火)～5月21日(日)6日間



親鸞聖人の略年表

- | | |
|--------------------------------|------------------------|
| 1173年 京都にてご誕生 → ご誕生の年 | 1214年 常陸に入り関東を教化 |
| 1181年 慈円和尚について得度され、比叡山で修行 | 1224年 教行信証を撰述 → 立教開宗の年 |
| 1201年 法然聖人の専修念仏に帰す | 1235年 帰洛(京都に戻る) |
| 1205年 法然聖人から「選択集」を付属され、真影を図画する | 1248年 浄土和讃・高僧和讃を撰述 |
| 1207年 承元の法難によって越後に流罪 | 1258年 正像末和讃を撰述 |
| | 1263年 ご往生 |

このドラマは浄土真宗の宗祖親鸞聖人が生きられた平安時代末期から鎌倉時代初期にかけての時代劇でした。ドラマの中でも親鸞聖人に得度を授けた慈円和尚(演・山寺紘一さん)や奥様である恵信尼公の従弟にあたり源頼朝の側近であった三善康信(演・小林隆さん)が登場していました。この時代を親鸞聖人が生きられたのだなと感慨深く観ておりましたが、この時代は現代の私たちの想像をはるかに超える大変な時代でした。親や兄弟でも敵となり、お互いが争い合い、殺し合う、そして、多くの人々が亡くなり、沢山の深い悲しみ・苦しみがあつた、そんな

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。さて、皆さん、昨年の大河ドラマ「鎌倉殿の十七人」をご覧になりましたでしょうか？



本行寺門信徒会報が80号になりました!

門信徒の皆様とお寺をつなぐ「かけはし」として、会報の発行を続けて参りました。今後も100号に向けて行事のご報告や、お役に立てる情報をお伝え致します。ぜひお目通しいただき、お寺の行事へご参加いただけますようお願い申し上げます。



初参式

「初参式」とは、ご門徒のご家庭に生まれた赤ちゃんが、両親や家族と一緒に初めてお寺にお参りし、阿弥陀様の御前にてお祝いをして新たな「いのち」に感謝をするお式です。ご門徒の皆様の中、お子様がお生まれになりましたらどうぞご家族揃ってお祝いにお越し下さい。(法務員が寺務所にお問い合わせ下さい。)



寺子屋子どものつどい

○令和4年の寺子屋子どものつどいは、新型コロナウイルスの感染が急拡大したため、やむなく中止致しました。今年は是非開催できますよう準備を進めて参ります。その際には多くのお子様に参加頂けますようご協力をお願い致します。

今年が親鸞聖人ご誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年の年です。京都のご本山では盛大に法要が営まれます。親鸞聖人は「世の中安穩なれ」というお言葉を残されました。「安穩」は「平

和」という意味です。今の私たちは当たり前のように平和を享受しておりますが、親鸞聖人の時代はドラマの中でもあったように争いや飢饉が多く、常に死と隣り合わせでした。その時代を生きた聖人が「安穩」という言葉で「平和」を伝えて下さっていることは、それが私たち人間にとって何より一番大切であるということに他なりません。

謹んで新年のお慶びを申し上げます。会員の皆様におかれましては、ご家族とお慶び申し上げます。お揃いで健やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。昨今はコロナ禍や物価高、ウクライナ侵襲等、先の見えない問題が続いています。十二月からは医療費の一割負担が二割負担となり、自己負担増と生活に係

わる苦に取り囲まれているのではないのでしょうか? 賃金は上がりず年金も減額、今は我慢するしかないのでしょうか? 新年を迎え、先の見えない問題の解消の年になればと願うところです。私たちは念仏者の一人として、宗門のみ教えをよりどころに生きる者となり、少しづつ 執われの心を離れます。生かされていることに感謝して、むさぼり、いかに流されず、穏やかな顔と優しい言葉、喜びも悲しみも分かち合い、日々精一杯つとめることに励みましょう。今年もお念仏をよりどころに、皆様にとって健康で多幸であることを願い、新年のご挨拶とさせていただきます。

合掌

今この時代だからこそ、これからは生きる人々が安心して穏やかに暮らしていけるように、お念仏のみ教え、親鸞聖人のお言葉に耳を傾けて参りましょう。合掌



本行寺門信徒会 会長 種市 顯治

新年のごあいさつ

新年のごあいさつ

宗祖 報恩講法要

院代 相撲 浩心

十月十六日



今年の報恩講も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年の日程を大幅に縮小し組内のご法中も呼ばず、

今年を重ねると出会いよりも別れの方が多い昨今、法要で読まれる表白の中の亡くなられた多くの方々のお名前を聞くと、本行寺で勤務し三十六年、様々な思いが甦りました。

生者必滅（生きているものは必ず死ぬこと） 会者定離（出会った人とは必ず別れること） 愛別離苦（愛しき人も必ず別れなければならぬ苦しみ）を、あらためて思い知らされました。

院内だけでお勤めいたしました。法座もご満座法要と永代経法要を併せて一座法要という寂しい形の報恩講法要となりました。

御講師の先生は広島県より季平博昭先生をお迎えし、一席の法話となりました。

季平先生は、プロジェクターを使いご法話の要点をスクリーンに写しながらのお話で、とてもわかりやすく飽きさせないご法話でした。本行寺に来られるのが初めての布教使の先生でしたので、一席のご法話のみとなり残念でした。

来年こそは、通常の報恩講ができることを念願しております。

今年お参りに来られた方も、来られなかった方も、来年の報恩講にはぜひお参りくださいますようお願い申し上げます。

季平博昭師の法話

「ぼーっと生きてもいいんだよ！」

広報部 山本悦也

報恩講とは親鸞聖人のご命日に

寺で行われる最も大事な行事です。西本願寺では新暦の一月十六日、東本願寺は旧暦の十一月二十八日に行われます。北海道では寒いので早く行われるということです。

本行寺では、十月十六日に本堂で行われ、尾道の法光寺住職、季平博昭師のご法話がありました。NHKの「チョコちゃんに叱られる！」という番組がありますが、チョコちゃんの質問に答えられないと「ボーっと生きてんじゃねえ



よ！」と解答者が叱られます。季平師は、それを逆手にとって「ボーっと生きていくことが大切なことだ」と説かれました。

心理学者の河合隼雄氏は「ボーっとする時間を持つことで、酒が熟成するように心が育つ」と言っているそうです。人間は二十四時間ずっと集中しては体が持たないですね。

また、季平師は「南無阿弥陀仏」と阿弥陀如来さまに帰依することで、老若男女、誰もが救われる。阿弥陀如来さまは、条件付きで何かをしたから救うことは絶対ありません、救うということとは病気を治すこと、金持ちになることでもありません、と説かれました。

なるほど、これが浄土真宗のみ教えだと納得しました。

特別寄稿

本行寺の建築意義と特徴

京都華頂大学 川島智生

寺院は本行寺と曹洞宗の定光寺だけである。そのような意味で本行寺は鉦路では数少ない歴史的建造物のひとつをなす。

鉦路の丘の上、弥生町にある本行寺は百三十八年前の明治十八（一八八五）年の開教を淵源とする。現在地に明治三十三年（一九〇〇）年、最初の本堂を完成させる。それから二十六年後の大正十五（一九二六）年に現在の本堂が落成する。以来今年で九十七年目を迎える。

この本堂は大正九（一九二〇）年の計画にもとづき、二年後の大正十一（一九二二）年に基礎工事がはじまる。すなわち百一年前に建設が開始されており、約四年間かけて工事がなされ、完成する。大プロジェクトであった。その五年後の昭和六（一九三一）年には納骨堂と庫裏が完成しており、共に戦後に新しく新築されるが、納骨堂に関してはこの時の建物が現存する。

この本堂の特徴は洋風の骨格に和風意匠の荘厳な伽藍をみせることにある。二階建ての建物に向拝が玄関車寄せのように付き、



向拝の屋根は入母屋破風、二階の屋根の正面には千鳥破風が載り、共通する形を繰り返すことで、正面の存在感を強調する。壁面の仕上げは大壁造となり、縦長窓に水平目地が入るなど洋風意匠を示す。



す。一方で木鼻や虹梁などの装飾に関しては従来の和風の意匠が用いられていたが、その仕上げは木を刻んだ彫刻ではなく、左官による彫塑であった。芯となった木のまわりに番線を入れ、そこにモルタルで肉付けしていつて形づくられたものであった。金属板葺きの屋根以外は一切木部が露出せず、外壁は「鉄網コンクリート」というモルタルで厚く塗り込められ、その厚さは六〇ミリ（二寸）あった。当時鉦路の町を頻繁に襲った火災から逃れるためのもので、背面は石造（札幌軟石）となる。基礎は煉瓦造となり、耐火構造がめざされていた。

屋根の下の小屋組はトラス構造という洋小屋となり、和小屋に較べると耐震・耐風に優れた構法が採用されている。プランは真宗寺院の間取りを踏襲した伝統的なものとなる。建築材は鉦路近郊の茶路原野のタモ材が用いられ、四十八本の無節の丸柱が本堂を支える。

啄木資料館通信

本行寺啄木資料館館長 北畠 立朴

「今後、啄木資料館を どう生かすか」

昨年一月二十六日から「急性骨髄性白血病」の治療を受けました。主として鉦路労災病院に入院をしました。主治医をはじめ多くの看護士さんのお世話のおかげで三月六日退院いたしました。退院後は四週間に一度（五日間）抗がん剤の点滴を受けるために通院しております。通院は現在も続いておりますが、今のところ順調に回復に向かっております。

昨年一年間は上記のような状態のために、啄木資料館での企画展が全くできませんでした。毎回楽しみに来館された啄木ファンの方々に申し訳なく思っております。現時点で軽度な運動ならでできる状態になりましたので企画展を再開する準備をしております。

話は一転しますが、啄木はお正月の朝、次のように詠んでおります。

本行寺歴史探訪

第四世 覚也住職

直筆の茶碗

—その22—

「遍照十方」編集委員

福田 昭南

今、私の手許に一個の茶碗があります。これは、私が初めて本行寺の門をくぐった昭和三十四年、覚也住職からいただいたもので、茶碗には覚也師直筆のことばが焼かれています。当時は、茶碗にもこのことばにもあまり興味がありませんでしたが、歳を重ねるごとに焼物の善し悪しは解

「永劫と無限の中に呼吸する 一末塵あり我と名のりて 覚也」とあります。

私はあらためて師の大きな人柄を感じるとともに、ふと、江戸時代の禅僧、良寛を思い出しました。

良寛といえば、希有な才能に恵まれながら、「僧に非らず俗に非らず」と自ら称し、子供達と手まりやかうれんぼをして、生涯、遊びの中で貧しい託鉢の生涯を送ったことで知られています。

良寛の詩にも自らを「塵」と表現した一文があり、また覚也師の著書「粒々滴々」に良寛は登場し、蔵書

の中にも良寛に関する本が多数あることから、師は良寛に親しみを抱いていたことが想像されます。

さて、この茶碗は、いつ、どこで、どの程度の数を作られたのか、詳しいことは解っていません。良く見ると、素焼きの茶碗に一個一個自ら毛筆で揮毫しそれに釉薬（ゆうやく）を施し焼き上げていることから、大量には作れず、極く限られた数の茶碗であると思われまます。たとえ同じ茶碗であっても字体や焼き上がり微妙な変化があります。これまた味わい深い一品になっています。

覚也師の人物像について、当時の新聞等では一様に「豪快洒脱な人」と評しています。洒脱とは俗気を脱すること。これは師の経歴からみても領けるところですが、この茶碗にもそんな人柄が滲み出ています。

この茶碗は、良寛と同じように覚也師の「遊びごころ」だったのでしょうか。私にはそう感じられます。

本行寺に保管しますので、興味のある方はどうぞご覧下さい。



覚也住職直筆の茶碗



覚也師の筆跡



知人が所有する茶碗
文字や色合いが微妙



箱に貼られた本行寺の印

「何となく、／今年はいい事あるごとし。／元日の朝、晴れて風無し。」貧乏な生活のなかで常に明日は良いことがあると信じながら頑張ったようです。日常生活でも「新しき明日の来るを信ずといふ／自分の言葉に／嘘はなけど」と詠んでおりますが、啄木日記によると「大根汁に塩鱒一キレ。お雑煮などいふ贅沢は我家に無し」（明治四十年一月一日）翌年の元旦には「お雑煮だけは家内一緒に喰べた。屠蘇一合買ふ余裕も無いと云ふ頗る正月らしくはないから、正月らしい顔した者もない」と書き残している。他にも貧乏生活の様子が書き残されている。如何に貧しい年末年始であったか日記から知ることができる。

但し、釧路時代の啄木は貧乏とは無縁で高級料亭に何度となく通い大金を浪費している。家族は食べる物も買えず極貧の中で暮らしていた。何度も書いているが釧路時代の啄木は貧乏とは無縁であったことがわかる。親友宮崎郁雨からの援助があつて大金を自由に使つたことは誰もが知る事実であつた。

法味一言

人間が辱しを知るのには光りの働きである。
 仏教は智慧(ちえ)の宗教であるが、親鸞は「智慧の光明、智慧の念仏」といって、念仏が自分と社会を生かす灯だと教えている。
 「菅原覚也著「粒々滴々」より」

仏教壮年会

仏教壮年会 会長 草島守之

この度、札幌で(令和四年七月十七日(日)教化センター札幌別院)北海道教区仏教壮年会連盟結成四〇周年記念大会及び「第一六回全道仏教壮年会研修大会」、そして「第一連区仏教壮年研修大会」が併せて開催されました。北海道教区は昭和五十七年の発足以来、歴代理事長は八代目を数え、平成二十九年度から伊藤友一理事長が全道を牽引し、現在八三単位会の登録となっております。今後さらに強化を図るために各組一単位会の結成を目指しています。

また、第一連区は関東以北をエリアとし、その歩みは今から二十八年前に築地別院で第一回目が開催され今日まで歩みを刻まれています。
 今回の研修大会は「自らの生き方を親鸞聖人のみ教えに聞き、ともにお念仏申す朋友の輪を上げ、心豊かに生きる社会の実現をめざす仏教壮年会連盟の綱領を体し、朋友の輪を広げるため、仏教壮年会会員が参集し、教えを聞き親睦を深めること。」を目的としています。



ます。

このように大きな節目を迎える中で、研修会は講師松崎智海師をお招きし、「次の世代にどうやって伝えるか」をテーマに掲げ「仏社会員一人ひとり」が伝道者として生活をしていくには」という内容で進められました。

近年は宗教離れ、お寺離れが進んでいます。将来的にお寺の維持・存続への不安が高まっている中で、念仏者は親鸞聖人のみ教えを聴き、お育てを頂いた私達です。時代の変化に流されることなく、いつまでも変わらないみ教えを次世代へ伝えてゆく役割を担っていることを再認識し、今後の生活や活動に生かして参りましょう。

仏教青年会

主事 岡西慶照

令和四年七月三十日、本行寺に於いて釧路組青少年部と本行寺青年会合同の研修会が行われました。当初は、講師として九州 あそびの研究所より、所長の中島 宏先生を招き「子どもの集い」を予定していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の状況を鑑みて、子ども集いは中止となりました。そこで九州から足を運んでいただいた中島先生に、特別に研修会として子供たちのとの接し方や遊びの方法などを教えていただきました。

先生からは、割り箸や輪ゴムなど身近にあるものを使ってみんなで楽しめるゲームや、縁日の出し物のように複数の人数でもゲームを楽しめるアイデアなど、中でも少しでも子供が楽しく気軽にマスクをつけられるように、キャラクターデザインを取り入れたマスク作りが特に印象に残っております。

先行きの見えないコロナ禍でも、前向きに子供たちと一緒に楽しんで行ける方法がたくさんある事を教えていただけると大変貴重な経験となりました。この経験を活かし、来年度は感染対策に留意しながらなんとか「子どもの集い」を開催したいと思っておりますので、たくさんのご参加をスタッフ一同お待ちしております。

合掌



門徒僧侶合同研修会

(仏教壮年会研修会併修)

お聖教を学ぶ 公開講座

「大経のころ」

日時 令和5年2月4日(土)

午後1時から午後2時半頃まで

(受付午後1時 開会式午後1時15分)

場所 本行寺(釧路市弥生2-11-22)

講師 本願寺派輔教・行信教校講師・常見寺住職利井 唯明先生

受講料 無料(どなたでも参加出来ます)

編集後記

毎年二回、会員皆様にお届けする会報も今回で八十号を迎えることとなり、ご理解とご協力を下さいました関係各位に厚く御礼申し上げます。制作にあたっては菅原顯史住職、種市顯治門信徒会長を中心に会報部会が担当し、掲載内容を決めて参りました。

長きにわたりご愛読いただきどのような感想をおもちでしょうか。

見やすさ、おもしろさ、満足のゆく会報となっていたでしょうか。

今後も菩提寺である本行寺に関わる最新情報をはじめ浄土真宗の教章(私の歩む道)などをお伝えしてゆきたいと考えていますが、皆様のご感想を気軽にお聞かせいただけませんか。

一緒に紙面充実に参加下さいますようお願い申し上げます。

会報部会一同